

013 多発性硬化症／視神経脊髄炎

■ 患者情報

保険情報	保険者番号		被保険者記号	
	被保険者番号		被保険者 個人単位枝番	
	資格取得 年月日	西暦 年 月 日	*以降、数字は 右詰めで記入	
氏名	セイ		メイ	
	姓		名	
以前の登録氏名	セイ		メイ	
	姓		名	
住所	郵便番号	-		
	都道府県			
	市区町村			
	丁目番地等			
生年月日	西暦 年 月 日			
性別	☐ 男性 ☐ 女性			
出生地	都道府県			
	市区町村			

■ 基本情報

家族歴	☐ 1. あり ☐ 2. なし ☐ 3. 不明	
	発症者続柄	
	☐ 1. 父 ☐ 2. 母 ☐ 3. 子 ☐ 4. 同胞（男性） ☐ 5. 同胞（女性） ☐ 6. 祖父（父方） ☐ 7. 祖母（父方） ☐ 8. 祖父（母方） ☐ 9. 祖母（母方） ☐ 10. いとこ ☐ 11. その他 *11 を選択の場合、以下に記入	
	続柄	
発症時期	西暦 年 月	
社会保障		
介護認定	☐ 1. 要介護 ☐ 2. 要支援 ☐ 3. なし	
要介護度	☐ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4 ☐ 5	
生活状況		
移動の程度	☐ 1. 歩き回るのに問題はない ☐ 2. いくらか問題がある ☐ 3. 寝たきりである	
身の回りの管理	☐ 1. 洗面や着替えに問題はない ☐ 2. いくらか問題がある ☐ 3. 自分でできない	
ふだんの活動	☐ 1. 問題はない ☐ 2. いくらか問題がある ☐ 3. 行うことができない	
痛み／不快感	☐ 1. ない ☐ 2. 中程度ある ☐ 3. ひどい	
不安／ふさぎ込み	☐ 1. 問題はない ☐ 2. 中程度 ☐ 3. ひどく不安あるいはふさぎ込んでいる	
手帳取得状況		
身体障害者手帳	☐ 1. なし ☐ 2. あり（等級 ☐ 1 級 ☐ 2 級 ☐ 3 級 ☐ 4 級 ☐ 5 級 ☐ 6 級）	
療育手帳	☐ 1. なし ☐ 2. あり	
精神障害者 保健福祉手帳 （障害者手帳）	☐ 1. なし ☐ 2. あり（等級 ☐ 1 級 ☐ 2 級 ☐ 3 級）	
人工呼吸器等装着者認定基準に該当		
☐ 1. する ☐ 2. しない ☐ 3. 不明		

■ 診断基準に関する事項

診断

☐ 1. 多発性硬化症 (MS)	☐ 2. 視神経脊髄炎 (NMOSD)	☐ 3. Baló 病 (バロー同心円硬化症)
多発性硬化症の疾患分類	☐ 1. 再発寛解型 MS ☐ 2. 一次性進行型 MS ☐ 3. 二次性進行型 MS	

<診断のカテゴリー>

1. 多発性硬化症 (MS)
☐ A) 再発寛解型MS：以下の2つのいずれかを満たし、B. 鑑別診断の疾患を全て除外できる ☐ 1. 中枢神経内の炎症性脱髄に起因すると考えられる臨床的発作が2回以上あり、かつ客観的臨床的証拠がある2個以上の病変を有する。 ☐ 2. 中枢神経内の炎症性脱髄に起因すると考えられ、客観的臨床的証拠のある臨床的発作が少なくとも1回あり、さらに中枢神経病変の時間的空間的な多発が臨床症候、あるいはMRI所見により証明される。 ☐ B) 一次性進行型MS：1年間の病状の進行（過去あるいは前向きを観察で判断する）、及び以下の3つの基準のうち2つ以上を満たし、B. 鑑別診断の疾患を全て除外できる ☐ 1. 脳に空間的多発の証拠がある （脳室周囲、皮質もしくは皮質直下、あるいはテント下に1個以上のT2病変がある） ☐ 2. 脊髄に空間的多発の証拠がある（脊髄に2個以上のT2病変がある） ☐ 3. 等電点電気泳動法によるオリゴクローナルバンド陽性 ☐ C) 二次性進行型MS：再発寛解型としてある期間経過した後に、明らかな再発がないにもかかわらず病状が徐々に進行する

2. 視神経脊髄炎 (NMOSD)

☐ A) AQP4抗体陽性視神経脊髄炎 (NMOSD) : 以下の1~3の全てを満たす

☐ 1. 以下の主要臨床症候①~⑥のうち1つ以上の症候がみられる

☐ 2. AQP4抗体の検査結果が陽性

☐ 3. B. 鑑別診断の疾患を全て除外できる

【主要臨床症候】

☐ ① 視神経炎 (ON)

☐ ② 急性脊髄炎

☐ ③ 最後野症候群 (APS) : 他で説明のつかないしゃっくり又は嘔気及び嘔吐の発作

☐ ④ 急性脳幹症候群

☐ ⑤ 症候性ナルコレプシー、又はNMOSDに典型的な間脳のMRI病変を伴う急性間脳症候群

☐ ⑥ NMOSDに典型的な脳のMRI病変を伴う症候性大脳症候群

☐ B) AQP4抗体陰性・未測定の見神経脊髄炎 (NMOSD) : 以下の1~3の全てを満たす

☐ 1. 以下の主要臨床症候①~⑥のうち2つ以上の症候がみられる。ただし、主要臨床症候の1つ以上はON、縦長横断性脊髄炎 (LETM) を伴う急性脊髄炎、又はAPSであること

☐ 2. 実施可能な最良の手法を用いたAQP4抗体検査結果が陰性であるか、抗AQP4抗体検査を実施不可能

☐ 3. B. 鑑別診断の疾患を全て除外できる

【主要臨床症候】

☐ ① 急性視神経炎 (ON) : 以下の(a)または (b) を満たす

(a) 脳MRIの所見が正常であるか非特異的白質病変のみを認める

(b) 視神経MRIのT2強調画像で高信号となるか、T1強調ガドリニウム造影画像で造影される病変が、視神経長の1/2を超えるか視交叉に及ぶ

☐ ② 急性脊髄炎 : 3椎体以上連続の髄内病変 (LETM) 又は3椎体以上連続の脊髄萎縮のMRI所見

☐ ③ 最後野症候群 (APS) : 他で説明のつかないしゃっくり又は嘔気及び嘔吐の発作。
延髄背側/最後野の病変を伴うMRI所見

☐ ④ 急性脳幹症候群 : MRI所見により脳幹の上衣周囲に病変を認める

☐ ⑤ 症候性ナルコレプシー、又はNMOSDに典型的な間脳のMRI病変を伴う急性間脳症候群

☐ ⑥ NMOSDに典型的な脳のMRI病変を伴う症候性大脳症候群

3. Baló病 (パロー同心円硬化症)

☐ 急性・亜急性の大脳症状を呈する炎症性疾患のうち大脳病変の病理またはMRIにて同心円状病巣が確認できる

☐ 上記のいずれにも該当しない

A. 検査所見 *小数点も1文字として記入し、以降の数値ボックスについては全て同様に記載する

血清 AQP4 抗体	☐ 1. 陽性 ☐ 2. 陰性 ☐ 3. 未実施		
	検査日	西暦	年 月 日
画像所見（以下の領域に T2 病変が 1 個以上ある）			
脳 MRI 検査実施	☐ 1. 実施 ☐ 2. 未実施		
	検査日	西暦	年 月 日
大脳病巣	☐ 1. あり ☐ 2. なし		
	個数	☐ 1) 9 個以上 ☐ 2) 4～8 個 ☐ 3) 3 個以下	
	側脳室周囲病巣	☐ 1. あり ☐ 2. なし	
	径 3cm 以上の病巣	☐ 1. あり ☐ 2. なし	
	皮質直下病巣	☐ 1. あり ☐ 2. なし	
	病巣の大きさ	cm	
	ガドリニウム造影効果	☐ 1. あり ☐ 2. なし ☐ 3. 不明	
同心円状病巣	☐ 1. あり ☐ 2. なし		
小脳病巣	☐ 1. あり ☐ 2. なし		
	ガドリニウム造影効果	☐ 1. あり ☐ 2. なし ☐ 3. 不明	
脳幹病巣	☐ 1. あり ☐ 2. なし		
	ガドリニウム造影効果	☐ 1. あり ☐ 2. なし ☐ 3. 不明	
視神経病巣	☐ 1. あり ☐ 2. なし		
	部位	☐ 1. 右 ☐ 2. 左 ☐ 3. 両側	
	ガドリニウム造影効果	☐ 1. あり ☐ 2. なし ☐ 3. 不明	
脊髄 MRI 検査実施	☐ 1. 実施 ☐ 2. 未実施		
	T2 病変	個	
	検査日	西暦	年 月 日

脊髄病巣	☐ 1. あり ☐ 2. なし	
3 椎体を越える病変	☐ 1. あり ☐ 2. なし	
脳脊髄液所見		
検査実施	☐ 1. 実施 ☐ 2. 未実施	
	実施日	西暦 年 月 日
細胞数	個/ μ L	IgG index
タンパク量	mg/dL	
オリゴクローナル IgG バンド	☐ 1. 実施 ☐ 2. 未実施	
	実施日	西暦 年 月 日
	☐ 1. 陽性 ☐ 2. 陰性	

B. 鑑別診断（新規）

以下の疾病を鑑別し、全て除外できる。 除外できた疾病には☑を記入する。	☐ 1. 全て除外可 ☐ 2. 除外不可 ☐ 3. 不明
☐ 1. 腫瘍 ☐ 2. 梅毒 ☐ 3. 脳血管障害 ☐ 4. 頸椎症性ミエロパチー ☐ 5. 急性散在性脳脊髄炎（ADEM） ☐ 6. 脊髄空洞症 ☐ 7. 脊髄小脳変性症 ☐ 8. HTLV-1 関連脊髄症（HAM） ☐ 9. 膠原病（全身性エリテマトーデス、シェーグレン症候群など） ☐ 10. 神経ベーチェット ☐ 11. 神経サルコイドーシス ☐ 12. ミトコンドリア脳筋症 ☐ 13. 進行性多巣性白質脳症	

■ 重症度分類に関する事項

EDSS	
グレード	☐ 0 ☐ 1.0 ☐ 1.5 ☐ 2.0 ☐ 2.5 ☐ 3.0 ☐ 3.5
	☐ 4.0 ☐ 4.5 ☐ 5.0 ☐ 5.5 ☐ 6.0 ☐ 6.5 ☐ 7.0
	☐ 7.5 ☐ 8.0 ☐ 8.5 ☐ 9.0 ☐ 9.5 ☐ 10.0

運動機能	☐ 1) 500m 以上 ☐ 2. 500m 以下				
	☐ 3) 300m 以下 ☐ 4) 200m 以下				
	☐ 5) 100m 以下 ☐ 6) 補助具必要（片側 100m）				
	☐ 7) 補助具必要（両側 100m） ☐ 8) 車椅子生活（一人で乗降可）				
	☐ 9) 車椅子生活（助け必要なときあり）				
	☐ 10) ベッド生活（一日の大半ベッド外）				
	☐ 11) ベッド生活（一日の大半ベッド内）				
	☐ 12) ベッド寝たきり（意思伝達・飲食可）				
	☐ 13) ベッド寝たきり（意思伝達・飲食不可）				
	☐ 14) 死亡				
	神経学的所見	☐ 1. 正常 ☐ 2. ごく軽い徴候 ☐ 3. 軽度障害			
		☐ 4. 中等度障害 ☐ 5. 比較的高度障害 ☐ 6. 高度障害			
	終日の十分な活動	☐ 1. 自分で出来る ☐ 2. 出来るが最小限の補助が必要			
		☐ 3. 出来るが特別な設備が必要 ☐ 4. 出来ない			
視覚の重症度分類					
視力・視野	☐ 0 度 障害なし				
	☐ I 度 矯正視力 0.7 以上かつ視野狭窄なし				
	☐ II 度 矯正視力 0.7 以上、視野狭窄あり				
	☐ III 度 矯正視力 0.7 未満、0.2 以上				
	☐ IV 度 矯正視力 0.2 未満				
矯正視力	右		左		

■

症状の概要、経過、特記すべき事項など
 *500 文字以内

■ その他の事項

発症と経過

初発症状 (新規)		
視力障害	☐ 1. あり ☐ 2. なし ☐ 3. 不明	
	部位	☐ 1. 右 ☐ 2. 左 ☐ 3. 両側
複視	☐ 1. あり ☐ 2. なし ☐ 3. 不明	
構音障害	☐ 1. あり ☐ 2. なし ☐ 3. 不明	
膀胱直腸障害	☐ 1. あり ☐ 2. なし ☐ 3. 不明	
感覚障害	☐ 1. あり ☐ 2. なし ☐ 3. 不明	
四肢麻痺	☐ 1. あり ☐ 2. なし ☐ 3. 不明	
小脳性運動失調	☐ 1. あり ☐ 2. なし ☐ 3. 不明	
歩行障害	☐ 1. あり ☐ 2. なし ☐ 3. 不明	
初発症状		
経過		
経過の状態	☐ 1. 単相性 ☐ 2. 多相性 ☐ 3. 慢性進行性	
	臨床的再発	回
	慢性進行性	西暦 年 月頃から
誘因	☐ 1. 過労 ☐ 2. 外傷 ☐ 3. 手術 ☐ 4. 婚姻 ☐ 5. ワクチン ☐ 6. 出産 ☐ 7. 感染症 ☐ 8. その他	
	その他の内容	
身体障害	☐ 1. あり ☐ 2. なし	
	等級	級
	取得年月	西暦 年 月

臨床所見

神経学的診察の 実施日（新規）	☐ 1. 実施 ☐ 2. 未実施			
	実施日	西暦		年 月 日
脳神経（新規）				
視力障害	☐ 1. あり ☐ 2. なし			
	部位	☐ 1. 右 ☐ 2. 左 ☐ 3. 両側		
複視	☐ 1. あり ☐ 2. なし	構音障害	☐ 1. あり ☐ 2. なし	
嚥下障害	☐ 1. あり ☐ 2. なし	難治性吃逆	☐ 1. あり ☐ 2. なし	
反射（新規）				
腱反射亢進	☐ 1. あり ☐ 2. なし			
	左右差	☐ 1. あり ☐ 2. なし		
病的反射	☐ 1. あり ☐ 2. なし			
	左右差	☐ 1. あり ☐ 2. なし		
運動系（新規）				
運動麻痺	☐ 1. あり ☐ 2. なし	全身けいれん	☐ 1. あり ☐ 2. なし	
有痛性強直性攣縮	☐ 1. あり ☐ 2. なし			
自律神経系（新規）				
膀胱直腸障害	☐ 1. あり ☐ 2. なし			
歩行、姿勢、協調運動（新規）				
小脳（性運動）失調	☐ 1. あり ☐ 2. なし			
	左右差	☐ 1. あり ☐ 2. なし		
感覚（新規）				
感覚鈍麻	☐ 1. あり ☐ 2. なし			
	左右差	☐ 1. あり ☐ 2. なし		
認知機能（新規）				
精神症状	☐ 1. あり ☐ 2. なし			

臨床症候からみた病巣			
部位	☐ 1. 大脳 ☐ 2. 小脳 ☐ 3. 脳幹		
	☐ 4. 脊髄 ☐ 5. 視神経 ☐ 6. 末梢神経		
	視神経の部位	☐ 1. 右 ☐ 2. 左 ☐ 3. 両側	

検査所見（新規）

視覚誘発電位異常			
VEP	☐ 1. 実施 ☐ 2. 未実施		
	検査日	西暦 年 月 日	
	異常所見	☐ 1. あり ☐ 2. なし	
	部位	☐ 1. 右 ☐ 2. 左 ☐ 3. 両側	

治療その他

過去1年以内の 疾患修飾薬の有無	☐ 1. あり ☐ 2. なし		
	ありの場合、薬剤名		
	投与回数	回/過去1年以内	
	治療効果	☐ 1. 改善 ☐ 2. 不変 ☐ 3. 悪化 ☐ 4. 不明	
過去1年以内の パルス療法の有無	☐ 1. あり ☐ 2. なし ☐ 3. 不明		
	ありの場合	回数	回/過去1年以内
	治療効果	☐ 1. 改善 ☐ 2. 不変 ☐ 3. 悪化 ☐ 4. 不明	
過去1年以内の 副腎皮質ステロイド投 与の有無	☐ 1. あり ☐ 2. なし ☐ 3. 不明		
	ありの場合	種類	
		最大投与量	mg
		最大投与量単位	☐ 1. 日 ☐ 2. 週
治療効果	☐ 1. 改善 ☐ 2. 不変 ☐ 3. 悪化 ☐ 4. 不明		

過去1年以内の 免疫抑制剤治療の有無	☐ 1. あり ☐ 2. なし ☐ 3. 不明	
	ありの場合	種類
		最大投与量 mg
		最大投与量単位 ☐ 1. 日 ☐ 2. 週
	治療効果	☐ 1. 改善 ☐ 2. 不変 ☐ 3. 悪化 ☐ 4. 不明
過去1年以内の 血漿浄化療法の有無	☐ 1. あり ☐ 2. なし ☐ 3. 不明	
	治療効果	☐ 1. 改善 ☐ 2. 不変 ☐ 3. 悪化 ☐ 4. 不明
その他の薬剤		
薬剤1 (過去1年以内)	☐ 1. あり ☐ 2. なし	
	薬剤名	
	投与量	mg
	投与量単位	☐ 1. 日 ☐ 2. 週
	治療効果	☐ 1. 改善 ☐ 2. 不変 ☐ 3. 悪化 ☐ 4. 不明
薬剤2 (過去1年以内)	☐ 1. あり ☐ 2. なし	
	薬剤名	
	投与量	mg
	投与量単位	☐ 1. 日 ☐ 2. 週
	治療効果	☐ 1. 改善 ☐ 2. 不変 ☐ 3. 悪化 ☐ 4. 不明

■ 人工呼吸器に関する事項（使用者のみ記入）

使用の有無	☐ 1. あり		
開始時期	西暦 年 月		
離脱の見込み	☐ 1. あり ☐ 2. なし		
種類	☐ 1. 気管切開孔を介した人工呼吸器 ☐ 2. 鼻マスク又は顔マスクを介した人工呼吸器		
施行状況	☐ 1. 間欠的施行 ☐ 2. 夜間に継続的に施行 ☐ 3. 一日中施行 ☐ 4. 現在は未施行		
生活状況	食事	☐ 自立	☐ 部分介助 ☐ 全介助
	車椅子とベッド間の移動	☐ 自立 ☐ 軽度介助 ☐ 部分介助 ☐ 全介助	
	整容	☐ 自立	☐ 部分介助/不可能
	トイレ動作	☐ 自立	☐ 部分介助 ☐ 全介助
	入浴	☐ 自立	☐ 部分介助/不可能
	歩行	☐ 自立 ☐ 軽度介助 ☐ 部分介助 ☐ 全介助	
	階段昇降	☐ 自立	☐ 部分介助 ☐ 不能
	着替え	☐ 自立	☐ 部分介助 ☐ 全介助
	排便コントロール	☐ 自立	☐ 部分介助 ☐ 全介助
	排尿コントロール	☐ 自立	☐ 部分介助 ☐ 全介助

医療機関名												
指定医番号												
医療機関所在地												
電話番号												
	*ハイフンを除き、左詰めで記入											
医師の氏名												
記載年月日	西暦					年			月			日
診断年月日	西暦					年			月			日

- ・病名診断に用いる臨床症状、検査所見等に関して、診断基準上に特段の規定がない場合には、いずれの時期のものを用いても差し支えありません。（ただし、当該疾病の経過を示す臨床症状等であって、確認可能なものに限りです。）
- ・治療開始後における重症度分類については、適切な医学的管理の下で治療が行われている状態で、直近6か月間で最も悪い状態を記載してください。
- ・診断基準、重症度分類については、
「指定難病に係る診断基準及び重症度分類等について」（平成26年11月12日健発1112第1号健康局長通知）を参照の上、ご記入ください。
- ・診断年月日欄には、本臨床調査個人票に記載された内容を診断した日を記載してください。
- ・審査のため、検査結果等について別途提出をお願いすることがあります。

■ 行政記載欄

担当自治体												
受理日	西暦				年			月			日	
公費負担者番号												
認定結果	☐ 認定 ☐ 不認定											
研究同意の有無	☐ 有 ☐ 無											
受給者番号												
有効期限	西暦					年			月			日
階層区分	☐ 生活保護 ☐ 低所得Ⅰ ☐ 低所得Ⅱ ☐ 一般所得Ⅰ ☐ 一般所得Ⅱ ☐ 上位所得 ☐ その他											
軽症者登録	☐ 有 ☐ 無											
保険情報	保険者番号					被保険者記号						
	被保険者番号					被保険者 個人単位枝番						
	資格取得 年月日	西暦					年			月		